令和6年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立鈴峰中学校

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学力向上×ICT活用</p>	<p>1 授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマに沿った課題克服手段を検証する研究授業の実施 鳴門教育大学との連携事業から得た「わかる授業づくり」の取組の推進 <p>2 基礎学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業(1年数学)の実施 家庭学習定着の取組(1年7, 2年8, 3年9×10分) <p>※全国学調, みえスタディ・チェックの結果全国平均以上</p> <p>※「学校の先生は自分たちにわかりやすく授業を工夫してくれる」90%</p> <p>3 授業での1人1台端末活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT支援員を活用した研修会の実施 研究授業の実施(年間3回) 先進地視察(年間派遣人数のべ4人) 校区小学校と連携した授業改善 <p>(成果と課題)</p> <p>△全国学調(国語・数学)は国語は全国平均より低かった(-3.1)。数学は全国平均より高かった(+2.5)。みえスタでは2年は国数とも県平均以上、1年は国語が低く、数学は高かった。</p> <p>○「学校の先生は授業を工夫してくれる」98.7% (昨年度96%)</p> <p>数学習熟度別授業では少人数授業のため丁寧に指導することができている。</p> <p>○3回の研究授業には市外や県教委からの参加者も多数参加した。鈴峰中学校の授業改善の取組(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざした複線型授業)への注目度は非常に高い。</p> <p>○先進地愛知県春日井市高森台中へ4人、静岡県吉田町立吉田中へ2人派遣した。中学校区の全ての小学校も県外視察をとおして同じように授業改善に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国学調やみえスタの結果を分析し、研究授業や県外視察を通して授業改善に努めている先生方に敬意を表します。 授業の満足度は非常に高い数値を示している。さらに厳しくトップボックスの「あてはまる」の数値を使うことで積極的満足度の変化がわかる。そのように変えてみるのはいかがでしょうか。 校区小学校との意見交換をとおしてうまく連携できている。 授業公開をとおして、生徒に自主性と自信が育っている。 98.7%という高い満足度から、先生方の熱意が感じられる。今後、少しでもあがるように御指導いただきたい。 先生たちが日々の授業で生徒に向かい合い勝負していることがよく伝わってきた。授業研究や視察、研修で一丸となって取り組んでいる鈴峰中学校の先生たちに敬意を表します。 これからも学校のレベルが上がってってくれると嬉しい。 生徒の実態に合わせた取組を進めていると感じている。先生方は一生懸命にやっていると感じています。すばらしいと思います。 毎年、目標が焦点化されているとともに指標が数値化されており手立てや評価がしやすい。 小中で同じ場所に行く視察の取組は9年間の学びの一体化になり、効果的な学習が進められると思う。 子どもたちの多様な考えを大切に支援していただいていることに達成感を充実感を感じていると思う。 教職員の前向きな姿勢を強く感じた。すばらしい教師集団だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> DE層の改善に向けた重点取組 授業改善について全教職員で共有できるフォルダーを用意し、足並みをそろえて取り組む。今まで各自が実施した資料(パフォーマンス課題やルーブリック)等を共有する。 引き続きアンテナを高くして先進地や校区の取組を視察する。 全ての教科で探究のプロセスを軸に授業改善に取り組む。 教員どうしの授業見学の時間を増やし、授業改善に向けての意見交流の時間を確保する。 家庭学習の定着は今後も大きな課題。生徒だけでなく保護者にもそのことを保護者会や通信で伝える。 朝の時間について期間や曜日を決めて読書と朝学を実施してみる。 転入者や新規採用者に向けた授業改善の研修を実施する。
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">長期欠席対策</p>	<p>1 新たな不登校を生まない生徒指導の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員と生徒との関係構築と「生徒承認活動」の推進 <p>2 SCや関係機関と連携した不登校対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内ケース会議の開催 <p>※鳴門アンケート「先生はあなたの良いところを認めてくれる」95%</p> <p>(成果と課題)</p> <p>○「先生は良いところを認めてくれる」98.7% (鈴鹿市94.2%)</p> <p>〔令和5年度95.4%、令和4年度93.1%〕</p> <p>○教員は「いいとこみつけ」の活用によって、生徒の良さを見ようと意識している。デジタル化された「いいとこみつけ」によって短時間でたくさんのコメントを作ることができるようになった。</p> <p>○教育支援課作成の「児童生徒理解支援シート」を活用して校区で情報共有をした。</p> <p>○12月末現在10日以上欠席生徒数(35人)は令和5年度(36人)より減少している。</p> <p>○30日以上欠席生徒数は令和5年度(12人)とほぼ同じになると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 不登校や長欠の実態を経年にわたって分析され、校区での情報共有もされている。継続して取り組んでいただきたい。 それぞれの生徒の実態に合わせた丁寧な対応がされている。 不登校になる要因はいろいろあると思いますが、これからも更なる取組をお願いします。 毎日、生徒の顔や行動をさらっと見て変化があれば気にとめていただきたい。一言でいいので。忙しいので多忙ですがお願いします。話をするのが苦手、文字を書くのが苦手という生徒もいますから。 「いいとこみつけ」など生徒の良さをみようとすることはとても大切なことだと思います。学校は居心地のいいところ、自分を認めてくれるところになったら、学校に行きにくき子どもにとって喜ばしいことです。不登校の原因は種々であってなかなか改善は難しいことだと思います。 先生と生徒の信頼関係がとても深いように感じます。 「新たな不登校を生まない」との考えはとてもよいと思う。ケース会議を増やしみんなで対応して欲しい。不登校生徒が減っていくことを願っている。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域連携</p>		<p>1 小中9年間を見通した教育活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 鈴峰中学校区学校運営協議会拡大協議会の開催 <p>2 体育祭・壮行会・文化祭の参観</p> <p>(成果と課題)</p> <p>○校区拡大学校運営協議会を開催し、校区全体で児童生徒の課題や地域連携について交流することができた。部活動地域移行に関しては情報が少なくこれからのどのようになっていくのか注視していくことが確認された。</p> <p>○人権フォーラムに学校運営協議会委員の参加を得た。</p> <p>○体育祭・壮行会・文化祭に多くの保護者や関係者の方々に参観いただいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校区拡大学校運営協議会では、校区の課題について情報共有することができた。特に部活動の地域移行については、鈴鹿市の取組の方向性を知ることができた。来年度は各部活動や種目の動向も具体的に教えてほしい。 拡大協議会で部活の地域移行について考える機会があったのは大きなこと。各小学校と連携して指導者の確保を地域一体となって考える必要がある。 文化祭や壮行会に参加させていただいた。微力ながら生徒たちへの支援をしていきたいと思えます。 保護者は地域住民が学校行事に参加させていただくことはとてもありがたい。学校の様子がよくわかります。 今年度も先生方や生徒の様子を拝見することができてとても嬉しかった。 学校だよりを通じて学校の様子を知ることができて嬉しいかぎりです。拡大協議会・人権フォーラム・廃品回収はぜひ続けてほしい。 あまり学校の力になれていないように感じます。 先生たちの子どもへの愛情を感じることもできた。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">非認知能力育成</p>	<p>1 生徒承認活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いいとこみつけ」を定期的に実施し、生徒の自己肯定感を高める <p>2 小中で連携した取組の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季研修会等で非認知能力の現状と育成について調査研究を行う <p>※鈴鹿市版非認知能力アンケートにおける4つの要素 (①やりぬく力、②自制心、③自己肯定感、④社会性)の各項目否定的な回答をする 生徒の割合が①②③は10%未満。④は1.8%未満 を目標とする (成果と課題)</p> <p>○「いいとこみつけ」を定期的(毎週木曜日帰りの会)に実施した。 ○鈴峰中学校区で統一して5月と11月にアンケートを実施した。 ○夏季研修会で各校の取組を交流した。 ○4つの要素11月の結果(否定的な割合) ①やりぬく力4.46%○、②自制心9.38%○、③自己肯定感10.71%△、 ④社会性0.45%○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿市の新しい取組であるため、理解するところまで至っていない。 ・非認知能力という言葉がどうもわかりにくくとつきも悪い。もう少し親しみやすい簡単な言葉にかわるといいと思います。自己肯定感が一番大切だと思います。 ・「いいとこみつけ」いいですね。4項目の目標をほぼ達成していると思います。②③は社会に出てからも特に求められるものです。自分のことがあつぱれと思えるようになると何事にも前向きになれると思います。 ・自己肯定感を高めるための取組を継続的に続けてほしい。 ・一人ひとりの子どもたちの考えを大切に寄って寄り添いつつ、また、新しい考えを受け入れることのできる集団の中で、自己を高めていってほしい。自分の言動に自信をもってたくましく成長してほしい。 ・非認知能力の絵本の活用状況はどうだったか知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭における幼児期の取組強化。 ・いいとこみつけやSSTの継続的な実施。いいとこみつけは丁寧に生徒にかえていく。 ・非認知能力の育成については、教員がもっと研修を積んで深く理解したうえで、成果が出ると思われる取組をどんどん実施していく。 ・鈴鹿市作成のリーフレットを配付活用する。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">人権教育</p>	<p>いじめのない集団作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権学習の充実 ・ 校区人権フォーラムの開催 ・ 研究授業の実施 <p>※いじめを見たり聞いたりしたときに、やめるように言ったり誰かに伝えることができる 90%以上 (成果と課題)</p> <p>○いじめを見たり聞いたりしたときに、やめるように言ったり誰かに伝えたりすることができる 92.9% (令和5年度91.8%、令和4年度86.3%) ○校区人権フォーラムでは、中学生の司会のもと、児童生徒がそれぞれ意見を出し合い、活発な議論が展開された。SNS利用のモラル向上が必要であることが確認された。 ○市内小中学校を教職員を対象とした公開授業を10月30日(水)に実施し、校区小学校の教員が参観に訪れた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区人権フォーラムについては、テーマや進行などの中身を工夫して、これからも充実・発展させてほしい。 ・人権フォーラムは中学生がうまくまとめていた。 ・人権フォーラムでは活発な意見交換がされていた。いじめは、現実問題としてどこの学校、社会でもある。いろいろな場面で遭遇すると思うが、生徒たちには自分に正直に、常に相手を気遣う気持ちをもってくれればと思います。 ・そもそも、いじめは大人が堂々とやっているのだからなくなる。本音と建前、みなさんわかっているけど難しいのかな。 ・人権フォーラムの今年の題材「SNS」はよかった。考えるきっかけにはなったが、改善していけるとは思わなかった。「こうしていけるといいね」ということを子どもたちに落とし込めるといい。 ・地域でも表にでてくることはありませんが、フォーラムで子どもたちの話を聞いていると正々堂々としていて前向きに感じます。SNSのトラブルなど、先生方に御苦労をおかけしていると感じます。 ・様々な問題が発生しますが、その都度的確に対応していただいていると感じています。 ・学校生活のあらゆる場面で人権への感性を育てていくとともに、実行に移していける仲間集団であり続けたい。 ・今後、SNSによるトラブルが増えていくように思う。継続して考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の人権教育と中学校の人権教育の更なる連携 ・人権フォーラムにかかる取組だけでなく、道徳や総合でいじめや差別をなくすために「こうしていけるといいね」と考え話しあい、行動できる生徒の育成をめざす。 ・人権フォーラムにあわせて、同じ時間に全校でも同様の課題について話し合う時間を設定する。 ・小学校の人権学習をまず理解する必要がある。そのうえで、積み上げていけるような指導を組み立てていく。 ・今はSNSでの誹謗中傷やトラブルが中学生では多発しているのでその対処が必要である。犯罪であるという認識をもたせていく。 ・根本的に地域が保守的で思い込みや既成概念に捕らわれることが多いと感じる。保護者への啓発も必要であろう。 ・1年生からSNSについての授業や出前授業を積極的に取り入れ人権意識の向上やいじめ問題解決に取り組む。 ・1年から3年までの長いスタンスで継続的な学習計画を立てていく。